

平成 29 年度  
第 2 回いわき市地域包括ケア推進会議  
議事録

保健福祉部 地域医療介護室  
地域包括ケア推進課

## 平成 29 年度第 2 回いわき市地域包括ケア推進会議議事録

1 日 時 平成 29 年 10 月 3 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 30

2 場 所 いわき市 文化センター 4 階 大会議室 2

### 3 出席者

委員	箱崎	秀樹	委員	上遠野	理恵
委員	渡邊	健二	委員	鈴木	繁生
委員	園部	義博	委員	木田	佳和
委員	齊藤	隆	委員	板東	竜矢
委員	木村	守和	委員	山内	俊明
委員	松村	耕三	委員	田子	久夫
委員	中里	孝宏	委員	根本	寿子
委員	長谷川	祐一	委員	強口	暢子
委員	篠原	清美	委員	林	清
委員	古山	綾子	委員	鎌田	真理子
委員	小野	益生			

※ 増山祥二委員、菅波香織委員、新家利一委員欠席

### 4 事務局

保健福祉部	次長 (総合調整担当)	高沢	祐三
保健福祉部	地域医療介護室長	飯尾	仁
創生推進課	参事兼課長	津田	一浩
こどもみらい課	課長	藁谷	嘉人
保健福祉課	参事兼課長	園部	衛
障がい福祉課	課長	長谷川	政宣
地域医療課	課長	藁谷	孝夫
地域包括ケア推進課	課長	佐々木	篤
長寿介護課	課長	駒木根	通人
保健所総務課	参事兼課長	中澤	秀夫
保健所地域保健課	課長	相原	好子
平地区保健福祉センター	所長	鵜沼	宏二
小名浜地区保健福祉センター	所長	緑川	直
勿来・田人地区保健福祉センター	所長	福田	敦美
常磐・遠野地区保健福祉センター	所長	四倉	歩
内郷・好間・三和地区保健福祉センター	所長	村木	宏一
四倉・久之浜大久地区保健福祉センター	参事兼所長	堀川	盛敏
小川・川前地区保健福祉センター	所長	矢吹	和義
平地域包括支援センター	管理者	吉田	郁子

小名浜地域包括支援センター 管理者	加藤 幸 恵
勿来・田人地域包括支援センター 管理者	野口 富士子
常磐・遠野地域包括支援センター 管理者	小岩 洋 子
内郷・好間・三和地域包括支援センター 管理者	松田 和 枝
四倉・久之浜大久地域包括支援センター 管理者	熊田 智英子
小川・川前地域包括支援センター 管理者	藤 館 友 紀
地域医療課 主幹兼課長補佐	酒井 光
地域医療課 主査	阿部 征 人
地域包括ケア推進課 主幹兼課長補佐	池田 一 樹
地域包括ケア推進課 企画係長	青木 崇 徳
地域包括ケア推進課 企画係 主査	瀬谷 伸 也
地域包括ケア推進課 企画係 主査	猪狩 僚
地域包括ケア推進課 企画係 主事	小野 光 貴
地域包括ケア推進課 主任主査兼事業推進係長	佐藤 和 幸
地域包括ケア推進課 事業推進係 主査	金成 聡 司
地域包括ケア推進課 事業推進係 事務主任	門馬 理 沙
地域包括ケア推進課 事業推進係 事務主任	相川 朋 生
長寿介護課 課長補佐	安井 淳
長寿介護課 課長補佐兼徴収推進担当員	鈴木 英 規
長寿介護課 長寿支援係長	藤 館 克 共
長寿介護課 主任主査兼介護保険係長	坂本 紀一郎
長寿介護課 介護保険係事業推進員	坂入 直 人
長寿介護課 介護認定係長	吉田 雅 昭

※ ゲストスピーカー

特定非営利活動法人ままはひと 理事長 笠 間 真 紀

## 5 議 事

### 【協議事項】

- (1) 地域包括ケア（システム）とは
- (2) 前回の主な意見
- (3) 本人の選択と家族の心構え
- (4) すまいとすまい方
- (5) 介護予防・生活支援
- (6) 医療・看護・介護・リハビリ・保健福祉

## 6 当会議の公開について

当会議について、市民への公開を原則とし、議事の内容を市ホームページへ掲載することで、広く周知を図ることとなった。

## 7 議事録署名人の選任

議事に先立ち、本日の議事録署名人について、渡邊委員、鈴木委員が選任された。

## 8 会議の概要

事務局	〈「(1) 地域包括ケア(システム)とは」「(2) 前回の主な意見」説明〉
事務局	〈「いわきネウボラ」説明〉
A委員	ネウボラについてだが、おやCoCoという愛称があったかと思うので、それをぜひ多用してもらって、皆さんに印象づけてもらいたい。
B委員	中地域ケア会議において、高齢者だけでなく、障がい者や子どもについても議論していくのであれば、社会福祉法人もより参画していく必要があるだろう。
A委員	ネウボラについてだが、貧困世帯も対象にするということで、安心している。ただ、妊娠したことに不安を覚える方もいて、妊娠SOSといった窓口を設けている自治体もあるので、そうした取組みも表に出してもらいたい。
事務局	〈「いわき創生に向けた取組みについて」説明〉
C委員	避難されている方へのアプローチはどのようなものがあるか。
事務局	これは市民に対してのもの、これは避難されている方に対してのもの、というような色分けは特に行っていない。
木村副会長	学校の授業などでいわき市について考えてもらうことが必要だろう。また、市のイメージアップのためにも、クリーンエネルギーに関する取組みを進めてもらいたい。
事務局	地域の未来と自分の未来を重ね合わせてもらえるような取組みを進めたい。
D委員	なぜ若者が流出するのか考えると、誇りになるような歴史を持たないからではないか。平や常磐といった地域には歴史があるが、いわき市全体となると歴史がない。抛りどころとなるような文化を継承していかなければ、この町はますます衰退していくだろう。
事務局	いわきアカデミアの中で、地元の歴史を知るということも、テーマに据えている。地域学のような取組みも始まっており、また、地域の祭りが行政主導ではない形で復活しつつあるという流れもある。

E委員	<p>外から移り住まわれた方に話を聞くと、いわき市はかなり閉鎖的に見えるらしい。市の中で物事が完結してしまうのが、その原因の一つだろう。もう一度、暮らしというものへの意識を見直して、立場が異なる人々も受け入れていく必要がある。また、行政と地域の在り方も、意識そのものから見つめ直していく必要がある。まちづくり懇談会などを見ていると、地域から行政に要望するというスタンスが主。これからは、行政と地域が同じテーブルを囲んで、同じテーマについて話し合わねばならない。人口減少社会の中で、地域の課題を自分たちの課題として捉えられない地域、特に中山間地域はこれから先、存続が難しくなっていくのではないかと。</p>
事務局	<p>行政の意識改革が必要だと考えている。</p>
F委員	<p>農林水産業、特に漁業の復活が一刻も早く望まれる。</p>
事務局	<p>地域の誇りとも結びついている部分かと思われるので、努めたい。</p>
ままは一と	<p>〈「医療的ケアが必要な子どもについて」説明〉</p>
C委員	<p>先日開催された自立支援協議会でも、医的ケアを必要とする児童へ対応できるような社会資源を市南部に充実させるべきだ、との意見が挙がっている。自立支援協議会では、障がい児が成人になるまで一貫した支援を受けられるようなサポートブックを作成したり、地域生活支援拠点の整備を進めたり、親亡き後の障がい者支援について話し合ったりしている。県の会議においても、医的ケアを必要とする児童への手厚い支援を要望しているところだ。なかなか動きが見えず、不安に思われることもあるかもしれないが、こうして声を上げてもらえると、我々としても行政と連携しながら取組みを進めやすいので、今後ともよろしく願いしたい。</p>
ままは一と	<p>意見を交わすような場があれば、ぜひ呼んでもらいたい。</p>
B委員	<p>高齢者に対する支援に活用されている社会資源を、障がい者などに対する支援にも活用していくことが、これからは求められるだろう。どうすれば、それが実現できるのかを、行政と一緒に考える必要がある。</p>
G委員	<p>訪問看護の分野においても、学校で医的ケアを要する児童が増えているということで、教育委員会から話を貰っている。色々と課題はあるが、関係機関と連携しながら、取組みを進めたい。</p>
事務局	<p>〈「(3) 本人の選択と家族の心構え」「(4) すまいとすまい方」説明〉</p>
B委員	<p>リバースモーゲージについて、とある銀行では非常に力を入れているとのことだが、いまだに実績はないと聞いており、これの意味するところを探</p>

	<p>っていききたい。亡くなられた後、確実に問題となるのが財産整理の部分なので、金融機関などと十分に話し合い、先進自治体の事例を参考にしつつ、仕組みを構築してもらいたい。</p>
事務局	<p>金融機関とも話し合いながら、仕組みを作っていきたい。</p>
H委員	<p>制度が十分に周知されてないと感じるので、情報発信の手段だけではなく、頻度にもぜひ配慮してもらいたい。</p>
事務局	<p>その制度で、実際にどのようなことが行われているのか、というところまで具体的なイメージが湧くような形で、情報発信に努めたい。</p>
A委員	<p>県で開催された住まいに関する会議に参加したが、そこで話に出たのがごみ屋敷の問題だった。県においても、庁内横断的な組織を立ち上げて、対応を検討していくとのことだったが、本市の住まい部会においても、ぜひ話し合ってもらえればと思う。加えて、生活保護受給者や貧困者が住みがちな、火災の恐れが高い老朽化した集合住宅についても、チェックしてもらいたい。また、県の会議では、サ高住についても取り上げられていたが、どうやら数が伸び悩んでいるらしく、その背景には高額な入居費用があるようだ。快適な住まいをどのように供給していくのか、空き家などの課題も踏まえながら、様々なアイデアを出して、考えていく必要があるだろう。</p>
事務局	<p>ごみ屋敷の問題については、地区保健福祉センターや地域包括支援センターからも挙げられているところで、検討していきたいが、どうしても話題が広範になりがちなので、どこから着手すればいいのか難しい面はあるにしても、問題意識としては持っておきたい。</p>
事務局	<p>〈「(5) 介護予防・生活支援」説明〉</p>
I委員	<p>住民主体のサービスと緩和基準のサービスは何が違うのか。</p>
事務局	<p>住民主体のサービスは、現在の保険給付サービスでは対応できないようなニーズ、例えば、庭木の手入れなどといったニーズに、頻度のような面からも柔軟に対応できるものとして、想定している。緩和基準のサービスは、現在の保険給付サービスにおける生活援助を、無資格者の活用により、安定的に供給することを目的としている。</p>
I委員	<p>住民支え合い活動づくりモデル事業においては、サポーターに無償でサービスを提供してもらっていたが、新たに緩和基準のサービスができることで、そうした支え合いの意識が削がれてしまうのではないかと危惧しているところ。今年度は、第2層協議体の立ち上げに取り組んでおり、モデル地区である15か所には、社協独自の事業として補助を出している。住</p>

	<p>民主体のサービスと緩和基準のサービスを、本人の希望に応じて、上手く使い分けられるような仕組みを作る必要があるだろう。また、情報発信の手段としては、広報いわきに地域包括ケアに関するスペースを設けることなども、考えられるのではないか。</p>
事務局	<p>検討したい。</p>
B委員	<p>つどいの場が増えて、参加者も増えた、というのは分かるが、それによって、いったいどれだけの介護予防効果があったのか、というのが見えない。これはいわき市に限ったことではなく、全国的にもそうした状況なのかもしれないが、多くの専門職からの協力を得ているからには、評価の仕方をオープンなものにして、より実りのある取り組みとしてもらいたい。</p>
事務局	<p>今年度下半期における健康と生きがいづくり部会で、そうした点については、検討していく予定だ。つどいの場に参加することで、いったいどれだけの介護予防効果が得られるのか、ある程度の数のサンプルを追いかけることにより、しっかりとしたエビデンスを示せればと考えている。</p>
B委員	<p>介護予防に対する意識の変化についても、アンケートなどで調査してもらいたい。</p>
F委員	<p>どれぐらいの状態だと要支援なのか、というような情報を行政から提供してもらえれば、それぞれのつどいの場でどれだけの参加者がそうした状態なのかが把握できると思う。</p>
事務局	<p>つどいの場の参加者は、名簿として管理しているので、次回の会議では、そこにいったいどれだけの要支援者が含まれているのか、というような情報も示したい。</p>
事務局	<p>〈「(6) 医療・看護・介護・リハビリ・保健福祉」説明〉</p>
J委員	<p>認知症の兆候というのは、どうすれば分かるものなのか。</p>
K委員	<p>一人のときは認知症にしか見えない方でも、集団の中に入ると認知機能が戻るということもあるので、これこれこうだから認知症だというふうには、一概に決めつけることはできない。頭なり体なりを動かして、神経が衰えないよう、日々の中で努めることが大事だ。</p>
木村副会長	<p>今般、医師会では、多くの医師からの協力を得て、在宅医療ネットワークという組織を立ち上げる予定で、その名簿については、医療と介護連携促進部会で報告したい。また、小名浜でこれから取り組むという学び舎おなはまについてだが、この背景には平成28年度における医師会の提案があったかと思うので、チラシのどこかに地域医療介護いわき学校の表記をお</p>

	<p>願いたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>中地域ケア会議の協議を踏まえて、小名浜独自の取組みとして生まれたものなので、それが適当か今ここでは判断しかねるが、検討したい。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回の会議については、12月20日（水）午後6時30分から、文化センターでの開催を予定している。</p>

本議事録に相違ないことを証明するため、ここに署名する。

平成29年12月13日

議事録署名人

渡 邊 健 二      ⑩

議事録署名人

鈴 木 繁 生      ⑩